

議 会 運 営 委 員 会

令和 7 年 7 月 2 8 日（月）

午前 9 時 3 0 分

第 2 委員会室

議 題

- 1 尾張旭市議会 B C P に基づく議会防災訓練の運用について
- 2 議会報告会の充実について
- 3 その他

配付資料一覧

【議題 1 資料】

- 1 尾張旭市議会 B C P に基づく議会防災訓練の運用について

【議題 2 資料】

- 2 議会報告会の充実について

【議題 3 資料】

- 3 令和 7 年度議員力 U P 研修について

尾張旭市議会 BCP に基づく議会防災訓練の運用について

1 尾張旭市議会 BCP の策定

尾張旭市議会では、大規模災害等が発生した非常事態でも、迅速な意思決定と多様な市民ニーズに対応できる議会機能の維持を図るため、必要となる組織体制や議員の行動基準などを定めた尾張旭市議会 BCP(以下「議会 BCP」という。)を令和6年5月に策定した。

2 議会防災訓練の実施根拠

議会 BCP において、災害時に議員及び議会事務局職員が的確かつ迅速に行動できるよう、年1回の議会防災訓練実施を義務付けており、訓練実施後には、議会 BCP の内容の検証・点検を行うとしている。

3 過去の議会防災訓練

(1) 日時

令和7年1月 22 日(水)

(2) 訓練概要

【第1部:開庁時(本会議・委員会開会中以外)の大規模地震発生を想定した訓練】

※ 議会 BCP8ページ[イ 開庁時(ア以外の場合)]

【第2部:危機管理課による防災講座】

(3) 次年度以降の議会防災訓練実施に対する要望

N0	要望
1	いくつかの想定した訓練をした方がよい。連絡手段が使えない場合とか。
2	よりリアルな環境を設定する。例えば、全員参集ではなく本庁舎以外の避難場所及び避難所等からの情報共有方法等。
3	・ スマホ、インターネットが使えない場合の訓練 ・ 抜き打ち ・ 風水害
4	実際の場面では、集まらない場合が多いと思うので、集まらない場合を想定した訓練があってもよい。
5	継続していければよい。
6	被害状況を情報共有するため、各地域で撮った写真を送信する。
7	いつ何時災害が起こるかもしれないので、実施時期の変更を検討してほしい。
8	過去に被災した自治体の B C P についての調査研修を実施してほしい。

議会報告会の充実について

1 はじめに

令和7年6月6日開催の各派代表者会において、議長から、令和7年度検討事項の1つとして『議会報告会の充実』が示され、議会運営委員会で検討することとなった。

【 検討内容 】

- その都度、議会報告会実行委員会を立ち上げ、議会報告会の内容等を協議していたが、今後、議会報告会については議会広報委員会の所管事項とし、組織の合理化を図る。
- 議会報告会について、議会広報委員会の決定事項に基づき実施できるよう権限を持たせる。
- 議会が政策立案等を行うには、市民などから意見等を聴くことが重要となる。そのため、組織の合理化に併せて、議会広報委員会の名称を『議会広報広聴委員会』とするなどし、議会の広聴機能の強化を図る。

2 メリット

- (1) これまでは、その都度、議会報告会実行委員会を立ち上げ、委員を選出し、議会報告会が終了次第、解散していた。議会広報委員会の所管事項とすることで、議会報告会について継続した協議ができるため、内容の充実につながる。
- (2) 会議の回数が減るため、議会全体の業務軽減につながる。
- (3) 『広聴』機能の強化を図ることで、議会の政策立案等の活性化につながる。

3 見直しの方向性

- (1) 議会報告会は議会広報委員会の所管事項とする。なお、令和7年度の議会報告会に関する協議から議会広報委員会の所管とする。
- (2) 議会広報委員会の名称を『議会広報広聴委員会』とする。

4 今後のスケジュール

- 7月 ○議会運営委員会で協議
- 8～9月 ○議会広報委員会規程、議会報告会実施要綱、議会広報委員会申し合わせ事項の改正案作成
○議会運営委員会で改正内容を協議

令和7年度議員力UP研修について

3

● 日時・場所

令和7年10月 7日（火）午後1時30分から午後4時30分まで（オンライン研修）

令和7年10月17日（金）午後1時30分から午後4時30分まで（第2委員会室）

● 演題

ファシリテーション講座

「会議・会合を活性化し、対話を守り立てる技術を身につける」

● 内容

1 話し合いを効果的に進める

- (1) なぜ会議や話し合いが効果的に機能していないのだろう？
- (2) 説明、陳情の一方通行型から双方向のコミュニケーションへ
- (3) ファシリテーションとは？
- (4) 話を聴く力を高めるには？
- (5) 合意形成を進めるには？
- (6) 課題解決の話し合いを効果的に進めるには？
- (7) 効果的な話し合いを行うために必要な準備は？

2 対話を生かして協力・参加を促す

- (1) 相互理解と関係づくりを進める対話を行うには？
- (2) 対話のファシリテーターに求められることは？
- (3) 対話の型を知ると進めやすい
- (4) 交流しながら話を深める「ワールドカフェ」
- (5) ワークショップ・デザインの基本的な考え方
- (6) 対話への住民の参加を促すには？
- (7) ファシリテーション、対話の活用方法

● 講師

広石 拓司（ひろいし たくじ）氏

株式会社エンパブリック代表取締役、ソーシャル・プロジェクト・プロデューサー

東京大学大学院薬学系修士課程修了。シンクタンク、NPO 法人 ETIC. を経て、2008 年株式会社エンパブリックを創業。「思いのある誰もが動き出せ、新しい仕事を生み出せる社会」を目指し、ソーシャル・プロジェクト・プロデューサーとして、地域・企業・行政など多様な主体の協働による社会課題解決型事業の企画・立ち上げ・担い手育成・実行支援に多数携わる。著作に「ソーシャルプロジェクトを成功に導く 12 ステップ」「専門家主導から住民主体へ」など。慶應義塾大学総合政策学部、立教大学経営学部などの非常勤講師も務める。

